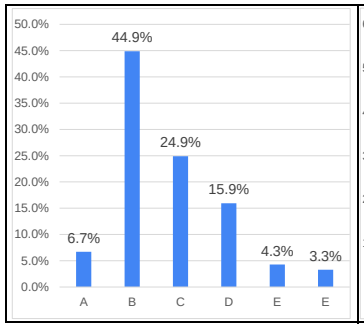
R5 運動部活動の運営と休日の地域移行に関する意識調査結果（県全体）
『 部活動に加入していない生徒・保護者アンケート 』

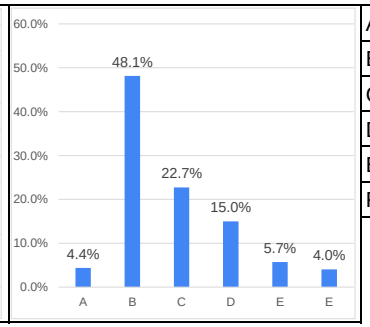
生 徒：n 3,417　　保護者：n 1,240

【質問1】（生徒と保護者への質問項目）
あなたの所属地区を選択してください。

生徒



保護者

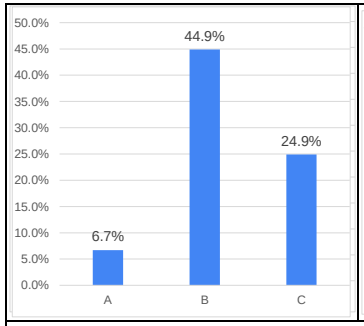


回答項目

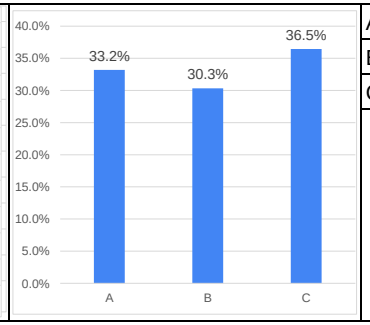
A 国頭地区
B 中頭地区
C 那覇地区
D 島尻地区
E 宮古地区
F 八重山地区

【質問2】（生徒と保護者への質問項目）
あなたの（お子様の）学年を教えてください。

生徒



保護者



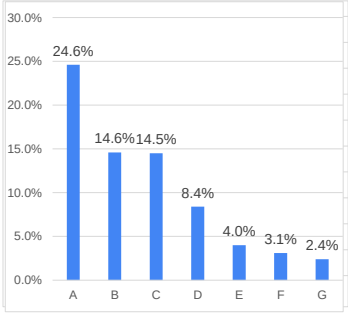
回答項目

A １学年
B ２学年
C ３学年

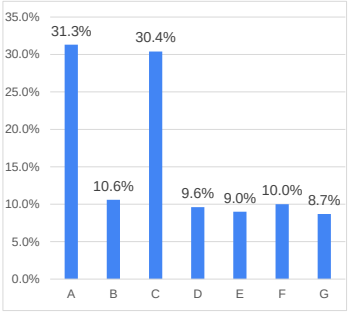
【結果と考察】
〇部活動に加入していない3,417人の生徒と、1,240人の保護者、合計4,657人から回答をいただいた。多くの回答を得ることができた貴重なアンケートとなった。
〇生徒については、2学年から最も多く回答を得ることができた。今年度入学した1年生からも多くの回答を得たかった。保護者については、全学年ともバランスよく回答を得ることができ、貴重なアンケートとなった。

【質問3】（生徒と保護者への質問項目）
運動部活動に入らなかった理由を教えてください。また、お子様が、運動部活動に入らなかった理由を教えてください。
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

生徒



保護者



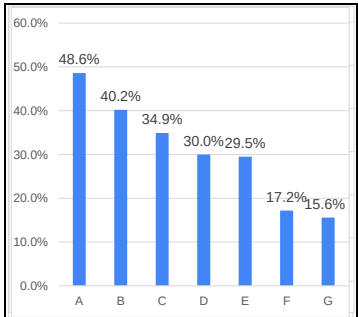
回答項目

A 自分のしたい活動を優先したいから
B 体力や能力に自信が無いから
C やりたい種目、入りたい部活が無いから
D 学習を優先したい、勉強の妨げになるから
E 指導者・コーチや友達との人間関係が苦手
F もっと専門的な指導を受けたい
G 活動時間・日数が長く活動量が多いから

【結果と考察】
〇生徒･保護者ともに、「A 自分の活動を優先にしたい」「C やりたい種目、入りたい部活が無いから」という回答が多かった。無理して部活動に入部せずに自己理解しながら活動の選択･判断をするということが数値に表れていると伺える。他に「クラブチームに所属している」「文化系の部活に所属している」と学校外での活動や文化系の活動に参加している生徒もいた。

【質問4】（生徒への質問項目）
どんな運動部活動なら入ってみたいですか？　　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

生徒



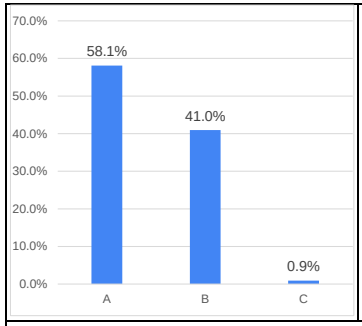
回答項目

A 友達と気軽に楽しめるようにする
B 学習や自分の趣味等と両立ができる
C 休んでも怒られない、辞めることもできる
D 活動の時間が適切でちょうど良い
E 先輩後輩の上下関係が厳しくない
F やりたい種目が選択できる
G 専門的で丁寧な指導を受けられる

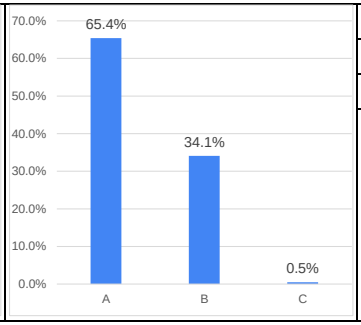
【結果と考察】
〇「A 友達と気軽に楽しめるようにする」「B 学習や自分の趣味等と両立ができる」「C 休んでも怒られない、辞めることもできる」についての回答率が高い。無理をせず、気軽に身体を動かす事ができ、自分のできる範囲で活動できるような部活動ならば入部してみたいという思いが数値に出ていると考えられる。

【質問5】（生徒と保護者への質問項目）
学校以外で、学習塾やスポーツ活動、習い事などに通っていますか？

生徒



保護者

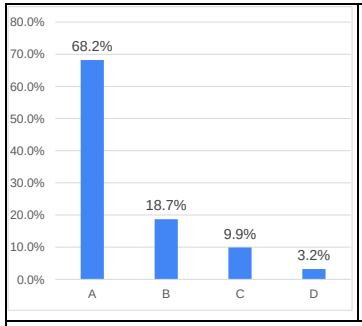


回答項目
A はい
B いいえ
C 無回答

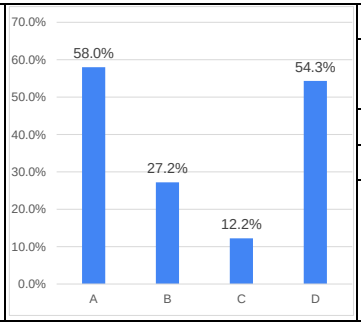
【結果と考察】
〇58.1%の生徒と65.4%の保護者が「A はい」と回答し、学校以外の活動・学習塾・習い事に通わせている事が分かった。

【質問6】（生徒と保護者への質問項目）
「はい」と答えた方にご質問します。どんな習い事をしていますか？（複数ある場合は全て）

生徒



保護者

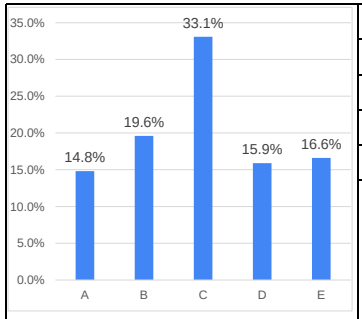


回答項目
A 学習塾
B 専門性や競技性の高いスポーツ活動（クラブチーム等）
C 趣味や楽しんで行うスポーツ活動
D その他（ピアノ、習字等）

【結果と考察】
〇質問5で「はい」と回答した生徒のうち、68.2%が「A 学習塾」に通っていることが分かった。次に「B 専門性や競技性の高いスポーツ活動（クラブチーム等）」と回答した生徒が17.8%であり、部活動以外の地域クラブ活動等（サッカー・硬式野球・バスケットボール等）に参加している生徒である。「D その他」については、そろばんや書道等の回答もあった。

【質問7】（生徒への質問項目）
それらの活動を行っている、平日の日数を教えてください。

生徒

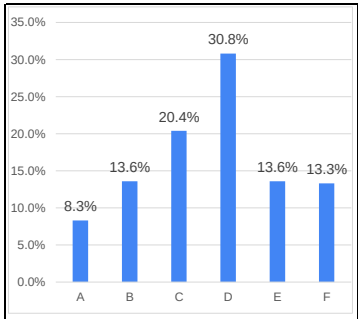


質問項目
A １日
B ２日
C ３日
D ４日
E ５日

【結果と考察】
〇平日の活動日数については、週2～3日の回答率が高くなっている。学校での部活動活動日数は、週4～5日の回答率が高くなっていたことから、平日の活動日は比較的少ないという事がいえる。

【質問8】（生徒への質問項目）
それらの活動を行っている平日１日あたりの平均的な活動時間を教えてください。

生徒

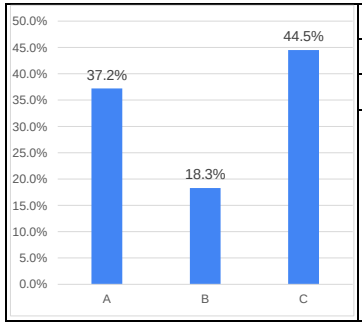


回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上

【結果と考察】
〇平日の活動時間については、2時間程度内の活動と回答した割合が最も高い。学校での部活動活動時間と同程度の活動時間になっている。

【質問9】（生徒への質問項目）
それらの活動を行っている、休日（土日）の活動日数を教えてください。

生徒

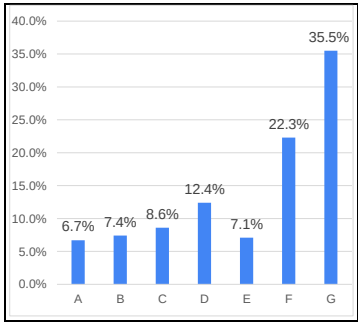


回答項目
A １日
B ２日
C 土日は行わない

【結果と考察】
〇約44.5%の生徒が「C 土日は行わない」と回答した。
部活動に加入している生徒の週末の活動日数と比較すると大きく違う部分であることが分かる。

【質問10】（生徒への質問項目）
それらの活動の休日１日あたりの平均的な活動時間を教えてください。

生徒

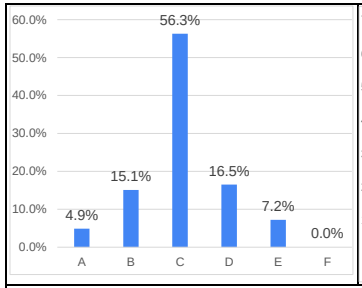


回答項目
A 30分程度
B 1時間程度
C 1時間30分程度
D 2時間程度
E 2時間30分程度
F 3時間以上
G 土日は行わない

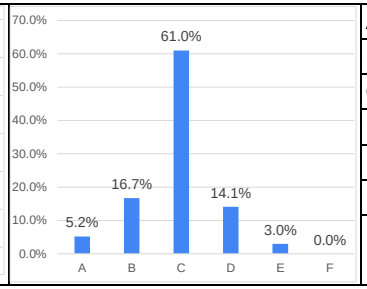
【結果と考察】
〇質問9で休日に活動していると回答した生徒の22.3%が、「F 3時間以上」活動していると回答した。休日の活動時間については、部活動と同じような傾向である事が分かった。

【質問11】（生徒と保護者への質問項目）
学習や趣味、家族や友人との時間を含めて、心身ともに健康でバランスの取れた生活を送っていくために、現在の活動量（時間や日数）は適切だと思いますか？

生徒



保護者

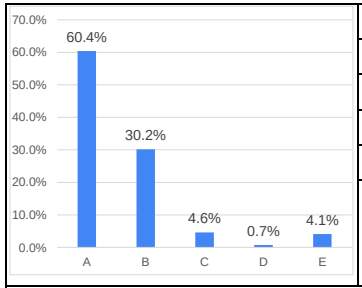


回答項目
A 多すぎる
B やや多い
C 適切
D やや少ない
E 少なすぎる
F 無回答

【結果と考察】
〇56.3%の生徒と61%の保護者が「C 適切」と回答している。また、「A 多すぎる」「B やや多い」と回答した生徒が20%、保護者で21.9%となっている。
生徒・保護者でこの結果を共有したうえで、今後の活動量について調整をしていく必要があるのではないかという見方もある。

【質問12】（保護者への質問項目）
練習のし過ぎは心身の不調やケガなどの原因になること（心身の不調やケガなどを防ぐために、休養をとることが大事なことを）知っていますか？

保護者

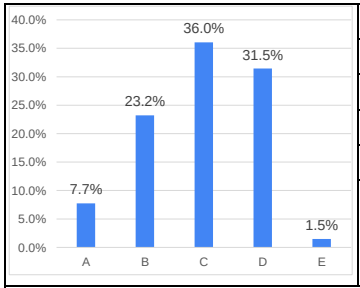


回答項目
A よく知っている
B やや知っている
C あまり知らない
D 全く知らない
E 無回答

【結果と考察】
〇「部活動に加入している生徒・保護者」と同様の結果となっている。
保健学習等も含め、練習のし過ぎによるデメリットと休養の大切さについて共有を図る必要がある。

【質問13】（保護者への質問項目）
現在、スポーツ庁・文化庁では、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行を令和7年度末までに推進しています。その内容について聞いたことがありますか？

保護者

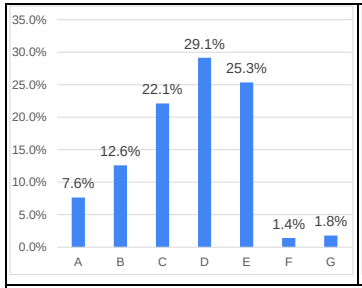


回答項目
A 内容もよく知っている
B 内容はやや知っている
C あまり知らない
D 全く知らない
E 無回答

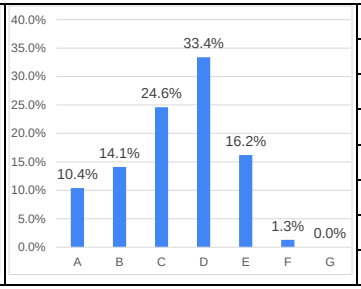
【結果と考察】
〇休日の地域移行については、30.9%の保護者が「A よく知っている」「B やや知っている」との回答である。「C あまり知らない」「D 全く知らない」が約67.5%となっている。部活動の地域移行という言葉は聞いているが、その概要についてよくわからないというところからの回答だと思われる。休日の部活動の地域移行が生徒たちの活動場所の提供や居場所になること等を県・市町村教育委員会を中心に発信する機会が必要であると考える。

【質問14】（生徒と保護者への質問項目）
休日の地域クラブ活動がスタートしたら、その活動に参加したいと思いますか？または、お子様は参加すると思いますか？

生徒



保護者

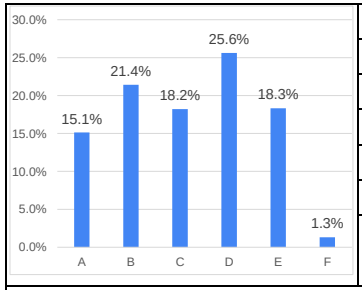


回答項目
A 参加したいと思う・すると思う
B やや参加したいと思う・すると思う
C やや思わない
D 全く思わない
E 分からない
F その他
G 無回答

【結果と考察】
〇51.2%の生徒が「CD 参加したいと思わない」と回答した。保護者の58%も「CD 参加したいと思わない」と回答した。20.2%の生徒と24.5%の保護者が「AB 参加したい」と回答しているのは、地域での専門的な指導や生徒の居場所作りに対する期待が表れていると考えられる。
25.3%の生徒が「E 分からない」と回答し、最も高い割合となったのは、地域クラブがどのような形で活動するのかというイメージが見えてないことが大きいのではないかと思われる。

【質問15】（生徒への質問項目）
同じ地域で、別の学校の生徒と一緒にスポーツ活動をしてみたいと思いますか？

生徒

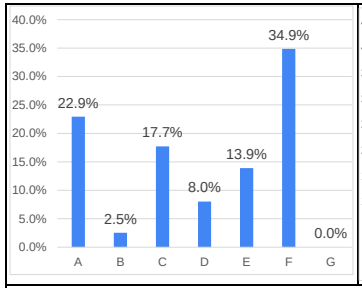


回答項目
A ぜひ、やってみたいと思う
B やや、やってみたいと思う
C あまりやってみたいと思わない
D 全くやってみたいと思わない
E 分からない
F 無回答

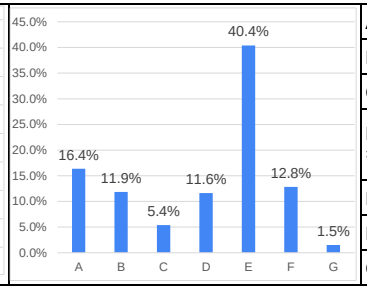
【結果と考察】
〇36.5%の生徒は「A ぜひ、やってみたい」「B やや、やってみたい」と回答しており、スポーツ活動に対して前向きな姿勢が伺える。「CD やってみたいと思わない」と回答した生徒は43.9%いることが分かった。

【質問16】（生徒と保護者への質問項目）
仮に、週一回（土日のどちらか一日）、地域でスポーツ活動がおこなわれるとしたら、「不安」な事はありますか？

生徒



保護者

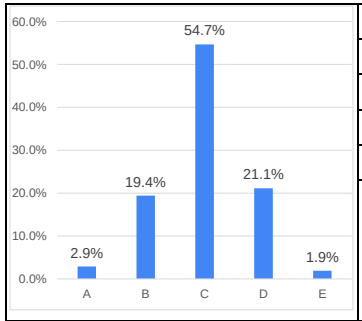


回答項目
A 希望する地域クラブ活動があるのか
B 専門の指導者の確保ができるのか
C 休日の選択肢が増えることに悩む
D 金銭面での負担（謝金・会場・道具等）
E 保護者の負担（送迎・当番等）
F 不安なことはない
G 無回答

【結果と考察】
〇22.9%の生徒は「A 希望する地域クラブ活動があるのか」と回答した。地域でどのようなスポーツ活動が行われるのか気になる様子が伺える。「F 不安なことはない」の回答率が34.9%あるが、質問14において「休日の部活動の地域移行に参加したいと思わない」についての回答率が高かった事も影響していると考えられる。
保護者では、「E 保護者の負担」が最も多く、部活動加入の保護者と共通している。また、「A 希望する地域クラブ活動があるのか」「D 金銭面での負担」についても共通して回答率が高い傾向にある。

【質問17】（保護者への質問項目）
お願いされたら、地域スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして関わりたいと思いますか？

保護者

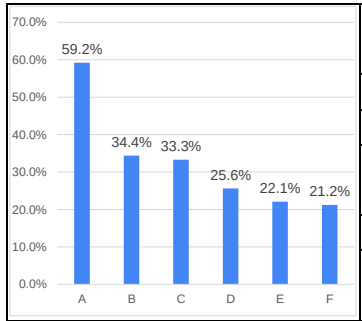


回答項目
A ぜひ、関わりたい
B どちらかといえば、関わりたい
C どちらかといえば、関わりたくない
D 全く、関わりたくない
E 無回答

【結果と考察】
〇お願いされても、地域スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして「CD 関わりたくない」が75.8%と高い結果となった。
一方、「AB 関わりたい」と回答した方も22.3%いることが分かった。

【質問18】（保護者への質問項目）
指導者や見守り、サポーターとして活動に関わる場合、どんな環境が整うことが大切だと思いますか？
※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位6項目

保護者

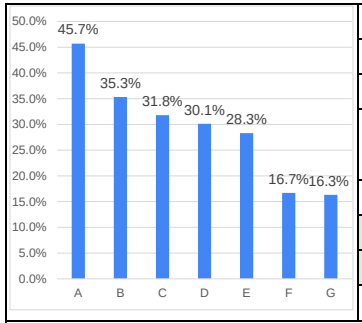


回答項目
A 複数の指導者による当番制など、協力して指導する体制が整っていること
B 居住する地域で指導できること
C 適切な報酬が支払われること
D お子様が活動しているチームで指導できること
E 現在、勤めている組織が承諾すること
F 自分の専門競技（種目）の指導ができること

【結果と考察】
〇サポーターとして関わる場合の理想的な環境としては、59.2%が「A 協力して指導する体制」と回答していることから、一部の指導者に偏ったり負担がかかることがないような体制作りが大切だといえる。「B 居住する地域で指導できること」「C 適切な報酬が支払われること」「D お子様が活動しているチームで指導できること」については、部活動に加入させている保護者と同様に回答率が高い傾向にある。

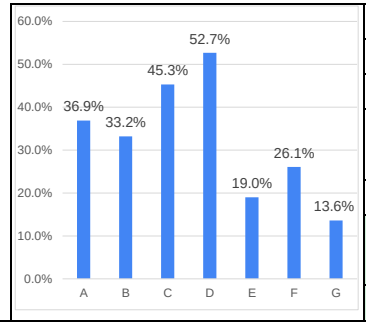
【質問19】（生徒と保護者への質問項目）
どんなスポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。　※選択肢の中から最大3つまでを選択した上位7項目

生徒



回答項目
A やりたい種目が選択できる
B 勝敗にこだわらず、気軽に楽しめる
C 専門的で丁寧な指導を受けられる
D 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
E 他校の友達ができる
F より勝利を目指す活動にする
G 活動内容などを生徒同士で決められる

保護者

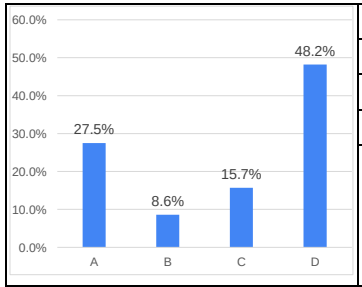


回答項目
A やりたい種目が選択できる
B 勝敗にこだわらず、気軽に楽しめる
C 専門的で丁寧な指導を受けられる
D 健康状態を配慮しながら指導してもらえる
E 他校の友達ができる
F いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる
G 複数の活動にできる

【結果と考察】
〇「A やりたい種目が選択できる」、「B 勝敗にこだわらず、気軽に楽しめる」、「C 専門的で丁寧な指導を受けられる」、「D 健康状態を配慮しながら指導してもらえる」については、生徒と保護者共通して高い回答率であり、無理せずに自分のできそうな範囲での活動を望んでいるといえる。生徒の16.7%は、「F より勝利を目指す活動」と回答しているが、保護者は「F いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる」との回答も高く、より多くの方と関わりを持つことで視野や見地を広げて欲しいという思いがあると伺える。

【質問20】（生徒への質問項目）
現在、運動部活動に入っていなくて、地域のスポーツクラブ等に入っている方に質問です。中学校を「卒業した後」、今活動している競技（種目）を続けますか？

生徒



回答項目
A 同じ競技（活動）を続けて行きたい
B 別の競技（活動）をやってみたい
C スポーツ活動は行わない（やめる）
D まだ決めていない

【結果と考察】
〇27.5%の生徒が、卒業後も「A 同じ競技を続けたい」と回答しているが、「D まだ決めていない」と回答したが48.2%いる。また、スポーツは継続するが「B 別の競技をやってみたい」と回答している生徒が8.6%いる。一方、「C スポーツ活動は行わない（やめる）」と回答した生徒は15.7%いることが分かった。